



講師:金生由紀子先生(東京大学医学部付属病院こころの発達診療部 児童精神科医)

濱田純子先生(東京大学医学部付属病院こころの発達診療部 臨床心理士・公認心理師)

司会:笠井さつき先生(帝京大学心理臨床センター 臨床心理士・公認心理師)

日時:2020年9月16日(水)19時から21時(Zoom会議)

内容:講師2名による前半約1時間のレクチャーと後半に参加者からの質疑応答タイムを設けます

参加費:3000円(お申し込み後に参加可否及び参加方法についてのご連絡を差し上げます)

参加資格:心理援助職の専門家(性別不問です。守秘義務に同意いただける方に限ります)

心理臨床の現場では、さまざまな症候群や〇〇ハラスメント、〇〇親などのラベルがクライエントから持ち込まれます。その一方で、たしかにクライエントの訴える心や体の痛みについてのみ聴くだけでは、いっこうに訴えが改善せず、ときに中断に至る場合もあります。心理援助職の限界でもある、クライエントのおかれた環境や現実に対してどのように向き合うのかというところと、こうした現象は深く関わっています。

「カサンドラ症候群」とは、ギリシャ神話の悲劇の女王カサンドラにちなんで命名されました。発達障がいスペクトラムの特徴を持つ方のなかには、パートナーと情緒的な交流を築くことが困難な方がいらっしゃいます。そのためパートナーは、恐怖、不安、孤独感、悲壮感などに苛まれ、さらにその困難を周囲に理解してもらえないという二重の苦しみから、精神的・身体的な不調をきたすようになります。

本研修会では心理療法やコンサルテーションの中で、女性クライエントの心や体の痛みの背景にある、親密関係の中でのすれ違いについて、発達障がい、発達特性という観点から専門家と一緒に考えたいと思います。パートナーや同僚などに独特的考え方・感じ方があって共感し合うことが難しいと感じているが、それがどうしてだか自分自身でもよくつかめずに、周囲にもうまく助けを求められず、もしも助けを求めようとしてもわかってもらえないという女性が少しでも生きやすくなるにはどうしたらよいかを、みんなで相談し合う機会をもちます。

独特の考え方・感じ方がすべて発達障がいであるというわけではありませんが、発達障がいや発達特性という観点もそのようなパートナーを理解する上で参考になります。また単純に「その相手に問題があるのではないか」という認識を持ち込むことでは、かえってクライエントの生活する環境に違和感を生じさせるなど、破壊的な方向にも向かいかねません。大切なのは、クライエントの現実にともに向き合うことです。

当日は、どのような支援が可能なのかという実践的な問い合わせを、皆さんと一緒に議論できればと思っています。テキストによりイメージを共有し、かつ実際の相談場面においてもクライエントがご自分の状況に適度な距離をもって観察することを可能にします。

心理援助職を対象としたクローズドな会ですので、守秘義務を遵守したうえでの自由な質疑応答もお受けいたします。ぜひ積極的なご参加をお待ちしています。

お申し込みは、こちらのフォームから(締め切り:2020年8月31日)

<https://forms.gle/HVu6keiBRvECHhUy9>